

第35回「若杉祭」
11月1～3日に開催!!

平成15年(2003年)11月1日発行

今年も盛大に 若杉祭

第35回



今年の若杉祭もさまざまな楽しいイベントが開催される。



今年の若杉祭もさまざまな楽しいイベントが開催される。



今年の若杉祭もさまざまな楽しいイベントが開催される。

学長選挙11月6日投票 11月27日に結果公示へ

今年、4年に1度の学長選挙の年にあたる。7月10日の理事会において選挙管理委員会が任命され、9月25日の理事会に選挙日程が報告された。選挙の日程は次の通りである。

▼10月7日 選挙日時
▼10月17日 候補者推薦
▼10月22日 候補者経歴書提出
▼11月6日 投票
▼11月27日 学内公示
▼12月20日 新学長辞令発令



調印式での山本社長(左) 大川理事長(右)

本学と(株)山本製作所が ファインブランディング事業調印

9月30日、本学と(株)山本製作所の間で、ファインブランディング研究事業に関する契約を取り交わし、調印式が行われた。本学からは大川陽康理事長、機械工学科村川正夫教授、産学リエゾンセンターの増田伸爾教授らが出席。(株)山本製作所からは山本勝弘社長、山本喜吉常務が調印に臨んだ。

工学部9名・大学院4名・留学生別科39名 平成15年度 秋季入学式が行われる



入学式で挨拶する神馬学長



卒業式で記念品を受け取る代表者

去る10月1日、平成15年度秋季入学式が情報工学科実験棟5階会議室で挙行された。今回新たに学生生活スタートさせたのは、工学部9名、大学院博士前期課程4名、留学生別科39名、大学院博士後期課程1名、留学生別科3名、本語研修課程39名である。神馬学長より、体験学習に励み、その知識を新入生諸君の糧にして欲しいとの式辞があった。

なお、9月20日には本学秋季卒業式と留学生別科秋季卒業式が挙行された。この日卒業(修了)したのは、工学部30名と大学院博士後期課程1名、留学生別科28名である。神馬学長より卒業(修了)生ひとりひとりに学位記が手渡された後、社会に出てからも人脈を広げ、健康に留意して頑張ってもらいたいとの言葉が送られた。

中でも、今回博士後期課程機械工学専攻を修了した山田真次郎氏は、(株)インクス代表取締役として多忙にもかかわらず、村川正夫教授の指導のもと、2年半で博士論文を完成させたことは特筆に値する。

若杉祭2日目にあたる11月2日は第4回ホームカミングデーの開催日。対象卒業生は、4期生、14期生、24期生、並びにシステム工学科の6期生、16期生の皆さん。ホームカミングデーで卒業生の目をひくのは、学内の変わりゆく光景だ。太陽光発電のソーラ1チューブや、ここ数年の間に新しく建てかえられた機械工学科、情報工学科、建築学科の各実験棟の棟の夜を彩る。会場では学生と参観者が花火を見上げながら、第35回若杉祭を胸に刻む。こうして、年に一度の若杉祭は数々の思い出を残して過ぎていく。



昨年抽選は大人気

学内見学会は、工業技術博物館を始めとして各研究センターを訪ね、今回のホームカミングデーでは、各研究室で同時開催する同窓会に、各教員が出席し、卒業生との懐かしい懇談の輪が広がる。

同日午後3時からは、全体の懇親会を情報工学科棟5階の会議室で開催。理事長、学長を始め、主任教授、

現・旧教職員が出席した。が当たる抽選会の企画が好評である。

自己点検・評価プロジェクト
大学基準協会による実地視察
本学では昨年6月から自らによる実地視察が行われた。己点検・評価プロジェクトを進めてきたが、今年1月下関関係者が対応したが、午に(財)大学基準協会に相前は面談調査、午後には相互評価を申請、4月には設見学、機械工学科の実験「点検・評価報告書」等をや共通系(英語)の授業参提出した。その後、相互評価、学生面談などの視察が行われ、10月10日(金)に、来年3月に通知されること、は、相互評価委員等3名になる。

第4回ホームカミングデーにぎやかに

工業技術博物館 第13回 特別展

くらしの中で活躍する針

太古の昔から人間生活を支えてきた針の歴史と生産技術を明らかにします

展示内容
竹製のミシン針(戦後製造)・蓄音機に使われた竹針や鉄針・各種の医療用針・各種の釣針・最先端技術によるミクロン単位の針など

*開催期間 11月1日(土)～30日(日)
*場所 工業技術博物館2階
*入場料 無料

講演会
*最新医療で活躍する針
一内視鏡下外科手術で活躍する針―
講師: オリンパス株式会社 岡田 光正氏
*日時 11月20日(木) 13:20～15:00
*場所 学友会館 ホール

主催 日本工業大学 工業技術博物館
TEL: 0480-33-7545 (博物館直通)

日本工業大学 平成16年度入試日程					
日本工業大学 工学部					
●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科					
	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一般入試	1月9日～2月5日	2月12日 2月13日 2月14日	全学科 全学科 全学科	2月20日	2月27日
社会人入試	1月9日～1月21日	2月14日	小論文及び面接	2月20日	2月27日
帰国子女入試	1月9日～2月5日	2月12日	書類審査及び面接	2月20日	2月27日
A0入試(第2期)	11月21日～12月1日	12月6日 12月7日	面談、課題への取り組み	12月13日	12月24日 1月19日
A0入試(第3期)	2月20日～2月27日	3月4日	面談、課題への取り組み	3月11日	3月17日

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集! (日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆平成16年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月7日～2月17日	2月24日	書類選考・面接	3月4日	3月11日

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507 (直通)

願書のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室
☎0120-250-267 TEL 0480-33-7676 (直通)
URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

第17回
建築コンペ

新鮮な視点の作品、426点が応募

課題：外でも楽しく暮らす家

全国の建築を学ぶ高校生を対象として、今年度も日本工業大学建築設計競技が実施された。今回は建築家の吉本剛氏を審査員長に迎え、「外でも楽しく暮らす家」を課題に開催された。入賞作品は以下のとおりである。

これらの作品は11月1日(土)～3日(月)の大学祭期間中、建築棟1階ホールにて展示されると共に、同3日(月)学友会館にて表彰式が行なわれる。

受賞の言葉

兵庫県立神戸工業高等学校(定時制) 建築科
梅野 栄美



この度は素晴らしい賞を頂き、大変感激しています。コンペに取り組み始めた頃は、どの様にすれば外での生活を楽しむことができるのか、考えがまとまらず逃げ出したくなることもありましたが、私は授業で学んだ住吉の長屋をもっと開放的に、自然で楽しく暮らせる家にはできないかと考え、間仕切りを可能な限り取り払い、外なのか内なのか分からない空間を造ることにしました。このコンペに応募し、今まで以上に建築を勉強しようと思いました。

て、自分の力で作りあげた作品が欲しかったのですが、始めての作品がこのように形で多くの方々に評価していただいた事をとても感謝しています。これからは、この賞を頂けたことを誇りに思い、建築家になる夢に向かって一層努力していきたいと思っています。ありがとうございました。

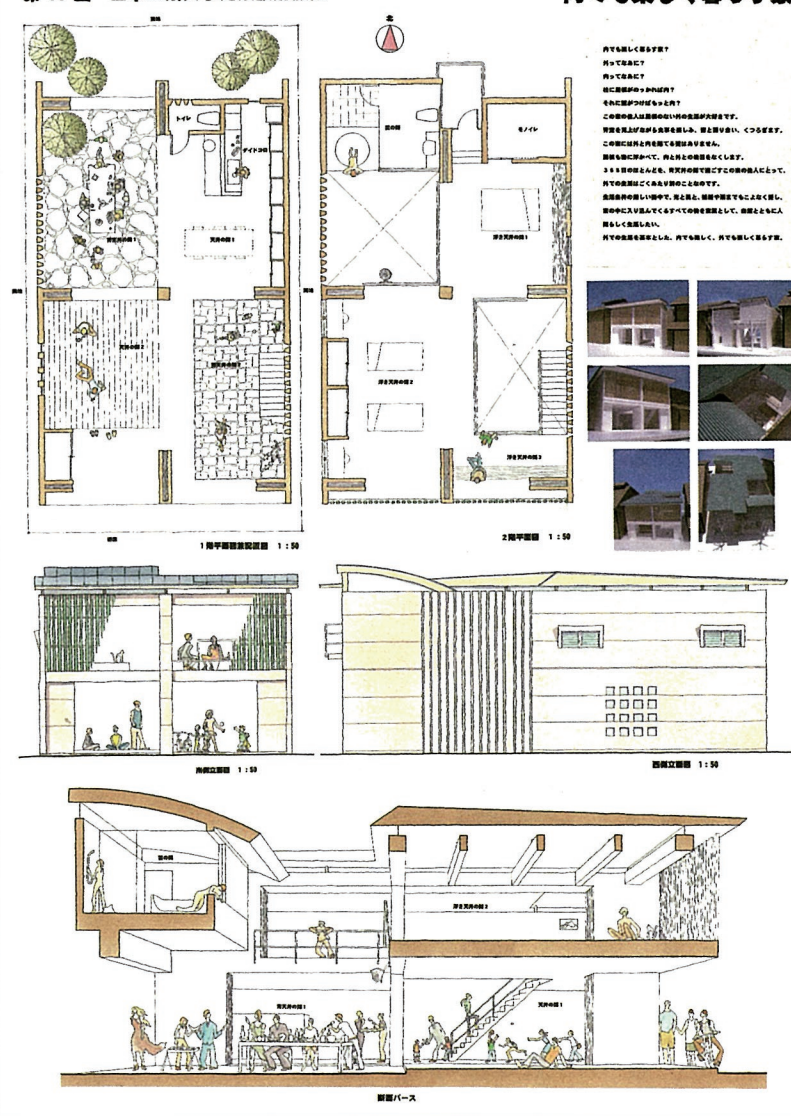
日本工業大学建築設計競技入選者

- | | | |
|------|-------------------|-------|
| 一等 | 兵庫県立神戸工業高等学校(定時制) | 梅野 栄美 |
| 二等 | 大阪市立工業高等学校 | 角野 公俊 |
| 二等 | 大阪市立工業高等学校 | 中川 宗幸 |
| 二等 | 兵庫県立兵庫工業高等学校 | 山口 紗織 |
| 審査員賞 | 仙台市立仙台工業高等学校 | 遠藤 弘美 |
| | 青森県立弘前工業高等学校 | 鎌田 千春 |
| | 兵庫県立神戸工業高等学校(定時制) | 川畑 美華 |
| | 山梨県立甲府工業高等学校 | 佐野 知笑 |
| 佳作 | 静岡県立静岡工業高等学校 | 市川 貴浩 |
| | 青森県立青森工業高等学校 | 小原 晴香 |
| | 静岡県立静岡工業高等学校 | 中野 匡人 |
| | 北海道釧路工業高等学校 | 西村 清志 |
| | 静岡県立浜松工業高等学校 | 松下 元也 |
| | 兵庫県立豊岡総合高等学校 | 山中 喜雄 |

1等 梅野栄美さん 受賞作品

第17回 日本工業大学建築設計競技

内でも楽しく暮らす家

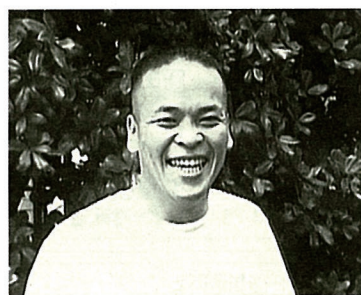


講評

「外でも楽しく暮らす家」は、「外」に着目するが、「外」をデザインするという事は、実は「内部」をデザインすること

私は、住宅を設計する時、えられた敷地の条件などから、その住宅の向かうべき方向、それぞれの住宅の「課題」を見つけて行きます。設計条件に目を通して

「外でも楽しく暮らす家」というような種類の「目標」です。私がなぜ目標を設定するかというと、ただ、グラデラ計画していても計画は出来てしまふからです。実戦の住宅設計の現場では「外でも楽しく暮らす家」というように最初から課題が用意されていることはなく、その住宅に住む人と設計者との対話の中から、或いは与



吉本 剛 (建築家)

吉本剛建築研究室主宰、神戸芸術工科大学環境デザイン学科非常勤講師を兼務。1961年徳島県生まれ。84年・日本工業大学 工学部建築学科卒業、85年・吉村篤一/建築環境研究所、89年・吉本剛建築研究室開設。現在に至る。

とモヤモヤとした気分になる場所に遭遇します。意識を集中して考えると、何故モヤモヤしたのかの理由が見えてきて、これを克服することがその建物の「課題」となったりします。

同一の敷地で、同一の家が生活する同一の住宅の設計であっても、何処に焦点をあて課題を設定するかにより、計画の内容はまったく異なったものとなります。だから設計の正解は一つではありません。「設定した課題に対してどう答えただのか?」という答えがあるだけで、その答えもまた無限です。

作品講評

さて、本題の「外でも楽しく暮らす家」は、住環境における「外」に着目し、これをキーワードとして住宅を計画しようとする課題です。解答は無限にあると思いますが、キーワードが持つ印象から「外気」を感じる計画でなければならぬと思います。また「外」をデザインするという事は、実は「内部」をデザインすることだと思っています。

「外でも楽しく暮らす」と「外」がクローズアップされている訳ですから、例えば「部屋の庭に隣接しているだけの計画」では「課題を解いた」という達成感を得られないと思います。

選考を終えて

「設計することを楽しむ」ということは、ひょっとするとものすごい事なのかもしれない。というのが私が工業高校生の時の設計の授業と云えば「製図」のことで、設計のほとんどが「写す」というレベルだったように記憶しています。「想像したり、発見する」という感覚や、自分の考えを建築的に「表現する」という意識など、まったく持ち合わせていませんでした。そんな過去の経験を持つ自分との比較をすると、ここに寄せられた計画案は驚愕的です。どの案にも思考の跡があり、驚く事に既に設計を楽しんでいる学生がいるのです。「もはや脱帽」そんな感じです。

梅野栄美さんの1等案「内でも楽しく暮らす家」は、とても素晴らしい作品です。一見華やかさに欠けるように思いますが、計画を読み込むほどに刺激的で、コンペのテーマに真っ向から挑戦し、そして成功していると思います。どこからが内部でどこからが外部だか瞬時に読み取れませんでした。したがって作者の言うように外での生活がごく当たり前に行える現実感があり、都市住宅においても豊かな「外」を獲得できるという優れた解答だと思っています。ほとんどが下足の領域ですが充分住みこなすことができるでしょう。また、開口部を閉じた時と開いた時のそれぞれが異なる空間の質の変化も魅力的です。「外」というキーワードを元に、心地のよい「外気」を感じる住まいが提案できていると思います。断面や西立面のプロポジションは少し検討すべきだったかもしれません。

(別表1) 資金収支計算書

科目	H14年度	H13年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	7,040,979	6,860,408	180,571
手数料収入	74,589	72,097	2,492
寄付金収入	135,687	131,050	4,637
補助金収入	726,695	716,081	10,614
資産運用収入	10,981	67,518	△ 56,537
資産売却収入	0	0	0
事業収入	59,868	56,971	2,897
雑収入	176,242	26,519	149,723
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	3,103,933	3,032,708	71,225
その他の収入	621,909	216,354	405,555
資金収支調整勘定	△ 3,372,861	△ 3,112,107	△ 260,754
前年度繰越支払資金	5,176,691	5,358,491	△ 181,800
収入の部合計	13,754,713	13,426,090	328,623

科目	H14年度	H13年度	増減
支出の部			
人件費支出	3,237,792	3,014,000	223,792
教育研究費支出	1,582,276	1,559,483	22,793
管理経費支出	345,165	326,164	19,001
借入金等利息支出	167,252	183,892	△ 16,640
借入金等返済支出	369,410	383,040	△ 13,630
施設関係支出	251,637	170,291	81,346
設備関係支出	642,557	645,870	△ 3,313
資産運用支出	474,100	1,649,065	△ 1,174,965
その他の支出	727,593	411,857	315,736
資金支出調整勘定	△ 82,677	△ 94,263	11,586
次年度繰越支払資金	6,039,608	5,176,691	862,917
支出の部合計	13,754,713	13,426,090	328,623

(別表2) 消費収支計算書

科目	H14年度	H13年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	7,040,979	6,860,408	180,571
手数料	74,589	72,097	2,492
寄付金	142,185	133,523	8,662
補助金	726,695	716,081	10,614
資産運用収入	10,836	67,518	△ 56,682
事業収入	59,868	56,970	2,898
雑収入	176,659	26,924	149,735
帰属収入合計	8,231,811	7,933,521	298,290
基本金組入額合計	△ 645,687	△ 635,635	△ 10,052
消費収入の部合計	7,586,124	7,297,886	288,238

科目	H14年度	H13年度	増減
消費支出の部			
人件費	3,240,062	3,100,250	139,812
教育研究経費	2,677,336	2,749,455	△ 72,119
管理経費	380,247	362,148	18,099
借入金等利息	167,251	183,892	△ 16,641
資産処分差額	147,982	37,634	110,348
その他の支出	580,121	277,915	302,206
消費支出の部合計	7,192,999	6,711,294	481,705
当年度消費収支超過額	393,125	586,592	△ 193,467
前年度繰越支出超過額	△ 7,174,517	△ 7,761,109	586,592
翌年度繰越支出超過額	△ 6,781,392	△ 7,174,517	393,125

(別表3) 貸借対照表

科目	H14年度	H13年度	増減
資産の部			
固定資産	30,143,715	30,410,270	△ 266,555
有形固定資産	23,078,364	23,453,549	△ 375,185
その他の固定資産	7,065,351	6,956,721	108,630
流動資産	6,436,378	5,400,987	1,035,391
合計	36,580,093	35,811,257	768,836

科目	H14年度	H13年度	増減
負債・基本金・消費収支差額の部			
負債の部	8,884,597	9,154,573	△ 269,976
固定負債	5,175,804	5,539,615	△ 363,811
流動負債	3,708,793	3,614,958	93,835
基本金の部	34,476,888	33,831,201	645,687
翌年度繰越消費収支差額	△ 6,781,392	△ 7,174,517	393,125
合計	36,580,093	35,811,257	768,836

(別表4) 資金収支予算書

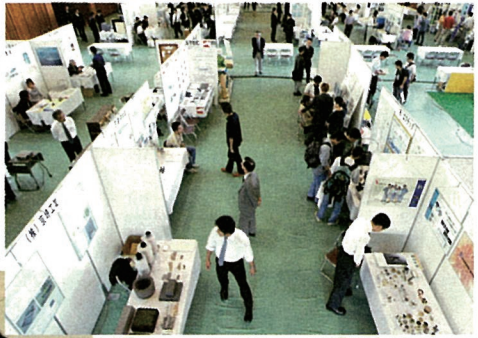
科目	H15年度	H14年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	6,745,277	6,709,829	35,448
手数料収入	62,678	68,600	△ 5,922
寄付金収入	83,800	92,900	△ 9,100
補助金収入	649,190	521,135	128,055
資産運用収入	7,800	10,000	△ 2,200
資産売却収入	0	0	0
事業収入	53,788	42,107	11,681
雑収入	11,610	157,255	△ 145,645
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,787,024	2,723,528	63,496
その他の収入	545,474	590,351	△ 44,877
資金収支調整勘定	△ 3,103,932	△ 3,032,708	△ 71,224
前年度繰越支払資金	6,039,608	5,176,691	862,917
収入の部合計	13,882,317	13,059,688	822,629

科目	H15年度	H14年度	増減
支出の部			
人件費支出	3,076,252	3,266,981	△ 190,729
教育研究費支出	1,936,365	1,751,295	185,070
管理経費支出	418,715	363,771	54,944
借入金等利息支出	151,585	167,253	△ 15,668
借入金等返済支出	366,080	369,410	△ 3,330
施設関係支出	192,000	350,000	△ 158,000
設備関係支出	794,987	546,752	248,235
資産運用支出	1,534,804	1,319,939	214,865
その他の支出	1,263,806	842,948	420,858
(予備費)	72,000	72,000	0
資金支出調整勘定	△ 23,592	△ 11,908	△ 11,684
次年度繰越支払資金	4,099,315	4,021,247	78,068
支出の部合計	13,882,317	13,059,688	822,629

(別表5) 消費収支計算書の主要項目の分析表

項目	H14年度	H13年度	増減
補助金／帰属収入	8.83	9.03	△ 0.20
人件費／帰属収入	39.36	39.08	0.28
教育研究経費／帰属収入	32.52	34.66	△ 2.13
管理経費／帰属収入	4.62	4.56	0.05
借入金等利息／帰属収入	2.03	2.32	△ 0.28
人件費／学生納付金	46.02	45.19	0.83

デモンストレーションが話題を呼んだ 第5回ビジネス交流会



上：主会場の体育館一杯には46企業・団体、本学の37研究室等が出展。産学の協力を分りやすくするため、産学共同している企業と研究室はブースを並置している。

下：今年の特徴は、学生の見学者が多かったこと。熱心に出展企業の説明を聞く学生達



除ロボット、付属東京工業高校のスーパーソーラー案山子ロボット他を展示、デモンストレーションでは、見学者多数の関心を集めた。今年の大きな特徴は学生の見学者が多かったことである。この機会に優良企業の情報を収集し、リクルート活動に資するとの姿勢と思われる。この他、学生は展示と交流会の運営でも積極的な役割を果たしていた。

26日には、展示会と並行してハイテクシンポジウムも開催された。これは日本機械学会関東支部との共催で、学生の研究発表15件、(株)河井謙逸氏による記念講演、産学の研究発表3件(本学先端材料技術研究センター野口裕之氏、武蔵野環境整備

本学では9月26日(金)と27日(土)の2日間、第5回ビジネス交流会を開催した。本ビジネス交流会は、この地域の意欲的な中小企業の製品と技術を具体的に展示し、商談を進めるもので、同時に本学の研究室等の技術も展示し、大学全体を広く公開する。

主会場の体育館には、46企業・団体、本学の37研究室等が出展した。

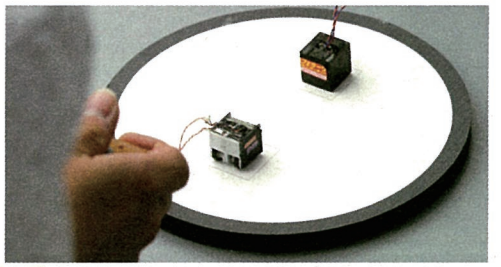
当日は好天に恵まれ、出展側と見学者を合わせて、2日間の入場者は延12000人

人々を数え、盛況であった。本ビジネス交流会は、大学キャンパス内で行う本格的な展示商談会として全国的な注目を集めている。今年も例を見ない企画である。今年には会場にロボットコーナーを設け、宇都宮大学のサッカーロボットとお掃

融合科目シンポジウム開催

新入生の学ぶ力を育てる授業改善シンポジウム第5回が、専門基礎融合科目の実施効果をテーマとして、9月26日午後1時に開催された。このシンポジウムでは、平成14年度に学長を総務責任者とする科目開発プロジェクトで開発した、英語・数学・物理の融合科目について、分担当、共同企画など、特色ある授業形態が取り入れられた。

シンポジウムでは、学長・教務部長の主催者挨拶の後、春学期に実施さ



力と技を競うマイクロロボットコンテスト
—機械工学科中里研究室企画—

9月27日、ビジネス交流会行事の一環としてマイクロロボットコンテストが行われた。2cm角のロボットが直径20cmの土俵内でぶつかりあう「相撲」と、8cm角のサイコロを自分の陣地に運んでひっくり返す「作業ロボットコンテスト」で力と技を競った。

国際交流

大川理事長以下 華中科技大学の 五十周年記念式典 へ出席

去る10/4、10/8の間大川理事長以下3名が本学協定校である中国武漢市の華中科技大学を訪問した。今回の訪問は華中科技大学創立五十周年記念式典に招待されたものである。式典に出席し、華中科技大学側首脳と懇談し、今後の両校の交流関係について討議した。また、今回の訪問に伴い、2003年10月末で失効する両校の学術交流協定の更新作業も行われ、今後5年間の両校の学術交流協定が締結された。

中国技術学院(台湾) 夏季建築研修団来学 8/17、20

台湾にある本学協定校である中国技術学院の建築技術研修団一行(35名)が来学した。一行は本学建築学科教授波多野純、渡辺勝彦、黒津高行以下の案内のもと日光東照宮、足利学校等を訪れ、日本の文化財建築の保存技術を見学した。

第36期決算・第37期予算

日本工業大学の 財政状況について

近に迫っております。このような環境下、本学が今後とも安定した教育研究を維持継続して魅力ある大学作りを努め、一層の差別化を図って行くためには、常に教育的・財政的側面を見直し、教育プログラム改革の推進とそれをサポートする財務体質の強化が益々重要になっております。

本学では、平成十四年度において、(財)大学基準協会による第三者評価を受けるべく「自己点検・自己評価」に取り組み、大学の一層の改革に乗り出す課題を得ております。財務においての改革は、既定の中期・長期計画の更なる見直しを実施し、ご支援くださる関係者各位との一層の連携を深めていく事と考えております。

第三六期決算・第三七期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

私学を取り巻く環境は、引き続き少子化による学生数の減少・規制緩和による大学数の増加等起因し、入学定員と志望者が均衡する「全人時代」の到来が間

二・平成十四年度 決算について

学校法人の主たる財務諸表には、全ての資金の流れとその顚末を示す「資金収支計算書」、各年度における収支の均衡状態や財政の健全さを見る上での指標となる「消費収支計算書」、決算時点における財政状態を明らかにした「貸借対照表」の三表があります。大が今後も安定した教育研究を維持継続して魅力ある大学作りを努め、一層の差別化を図って行くためには、常に教育的・財政的側面を見直し、教育プログラム改革の推進とそれをサポートする財務体質の強化が益々重要になっております。

本学では、平成十四年度において、(財)大学基準協会による第三者評価を受けるべく「自己点検・自己評価」に取り組み、大学の一層の改革に乗り出す課題を得ております。財務においての改革は、既定の中期・長期計画の更なる見直しを実施し、ご支援くださる関係者各位との一層の連携を深めていく事と考えております。

第三六期決算・第三七期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

私学を取り巻く環境は、引き続き少子化による学生数の減少・規制緩和による大学数の増加等起因し、入学定員と志望者が均衡する「全人時代」の到来が間

三・平成十五年 予算について

平成十五年予算は別表4のとおりであります。収入の中心である学生生徒等納付金収入は、本年度も学費据置を継続いたしましたので前年比微増の予算と致しました。また補助金収入については特別補助の増収を見込んだ予算とし、手数料収入は受験者数の減少を予測し控へる見込みといたしました。資産運用収入については低金利下の状況を鑑み、それぞれ前年より減少を見込んでおります。雑収入は退職者数の減少を考慮した予算としております。

四・むすび

冒頭で申し上げましたように、私学を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。「自己点検・自己評価」結果などを踏まえ、魅力ある大学として、教育研究面の充実と財務体質の強化を図ってまいります。

本学の教育改革、財政運営に対する学校関係者の皆様のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。財務部



第2回 5インチゲージ ミニトレイン・フェスティバル開催

9月13日、14日の両日、本学キャンパス内で、5インチゲージ・ミニトレイン・フェスティバルが開催された。

本学と付属東京工業高等学校が共催したもので、今年は第2回。参加台数は13日75台、14日77台。運転者と観客は延べ約350人が参加、昨年の倍以上の盛況だった。参加者自慢のミニSLやバッテリー駆動のミニ電車、全長1・2kmのレール上を疾走した。

沖繩の宮古工高にミニSLを寄贈
なおこの催しに先立ち8月28日に本学付属高校からは沖繩の宮古工業高校にミニSLが寄贈され、本学・大川陽康理事長、付属・大森和夫校長が開通式に出席した。「鉄道の無い島に蒸気機関車を走らせたい」という願いをかなえたミニSLの汽笛に試乗会場は大きな歓声につつまれた。(写真および情報提供は、日本工業大学付属東京工業高等学校)

楽しい夏休みもきょうまで



家族で思い出す、宿題に追われる子供

ミニSL開通を伝える宮古の新聞

11/8(土) スターリングテクノロジー開催



昨年実施された同ラリー、ノーマルクラスの様子

第7回スターリングテクノロジーが、昨年に引き続き本学を会場に11月8日(土)開催される。同ラリーは、自作のスターリングエンジンを搭載した車両で、スピードとアイデアを競うもので、今年は130件以上の参加が予想されている。

主催はスターリングテクノロジー技術会、(社)日本工学教育協会(大学・高専)、(社)全国工業高等学校長協会、本学も協賛。

競技は①人間乗車、②ノーマル、③ミニの3クラスで競われ、本学からは原研究室が、人間乗車とノーマルに各1台ずつ出場。付属東京工業高校からもノーマルとミニに各3台ずつ出場する。出場車の健闘と多数の応援を期待している。

吹奏楽団11月24日に第20回記念定期演奏会

本学吹奏楽団(指揮・山崎茂)が、11月24日(祝)春日部市民文化会館大ホールで、第20回記念定期演奏会を開催する。午前(11時開演)と午後(14時半開演)の2部上演で、入場は無料。沢山の皆様のご来場をお待ちしている。

人事異動

【任用】(8月1日付) ◆青柳稔実験講師(電気実験研究センター)昭和三十三年三月三十一日生まれ。平成十年東京大学大学院工学系研究科電子情報工学専攻博士課程修了。博士(工学)。前、名古屋工業大学工学部電気電子工学科助教、(10月1日付) ◆勝間田仁講師(情報工学科)昭和四十四年十月二十五日生まれ。平成九年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程情報工学専攻修了。博士(工学)。前、奈良工業科大学情報学部情報工学科助手。

【昇任】(10月1日付) ◆川村清志助教(建築技術センター)教授に昇任 ◆新藤義昭助教(情報工学科)教授に昇任 ◆日下部恵子助教(情報工学科)教授に昇任 ◆杉村京子助教(情報工学科)教授に昇任 ◆磯藤二朗助教(情報工学科)教授に昇任 ◆小西法行入試室課員(情報工学科)教授に昇任

国外出張(6月~8月)

◆張替勇助氏(超高压放電研究センター)荒井美千代事務職員(教務部入試室)

◆大木幹雄助教(情報工学科)出張先(米国)6/17/6/19/目的「日韓IT人材交流プロジェクトに係る韓国大学との打ち合わせ」協本隆之講師(超高压放電研究センター)出張先(ドイツ)6/24/7/2/目的「ISO17025認定取得のための校正試験立会」

◆横谷真一郎助教(機械工学科)出張先(スペイン)7/5/7/13/目的「先端材料製法の国際会議に出席と招待講演」

◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆ICALT 2003の論文発表 ◆鈴木康之助教(共通系)出張先(モンゴル)7/21/8/6/目的「モンゴル国DARHADYN HOTGOLS環境調査」

◆辻村泰寛助教(情報工学科)出張先(米国)7/27/8/1/目的「The 7th World Multiconference on Systemics Cybernetics and Informations (SCI2003)」の座長及び発表 ◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆山田秀美講師(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆松田洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

早期修了で博士号
山田氏、2年半で博士号取得

◆機械工学専攻博士後期課程3年 山田 真次郎
【論文題目】超音波振動切削法の高精度金型加工への応用に関する研究

【経歴】昭和24年12月生。昭和49年3月青山学院大学理工学部機械工学科卒業。平成13年4月本学大学院工学研究科博士後期課程機械工学専攻入学。現在(株)インクス代表取締役社長。

君(梅崎研究室所属、五所川原工業高校出身)が、「平面偏光RGB光弾性法を利用した主応力方向の決定」の講演発表で日本実験力学会より優秀講演賞を受賞した。本研究は、ガウスのほかしを適用したカラー光弾

受賞
六戸氏が奨励賞受賞

システム工学科鈴木清研究員、白石工業高校出身、平成14年3月に本学博士後期課程修了。が、「脆性材料への圧子押込みにおける亀裂の発生と制御に関する研究」で、低粒加工学会より奨励賞を受賞した。同研究はガラス表面を傷つけずにガラスを真直ぐに切断する新しい加工法で、既に同氏の勤務先であるベルデック社で実用化に至っている。

【配置換え】(10月1日付) ◆青柳稔実験講師(電気実験研究センター)電気電子工学科に異動 ◆京野晴郎図書課事務課員に異動 ◆図書課事務課員に異動 ◆武井孝経図書課事務課員に異動 ◆川島信也図書課員に異動 ◆総務部総務課国際交流係に異動 ◆関谷真一総務課員に異動 ◆教務部教務課に異動 ◆村上寛知図書課事務課員に異動 ◆財務部経理課に異動 ◆杉本賢二図書課事務課員に異動 ◆教務部入試室に異動

【任用】(10月1日付) ◆共通系主任 寺尾裕教授(再任) ◆電気電子工学科主任 石田之助教授(再任) ◆建築学系主任 波多野純教授(再任) ◆機械工学専攻幹事 横谷真一郎教授(再任) ◆システム工学科専攻幹事 渡部修一教授(再任) ◆留学生別科主任 山岸高教授(再任) ◆スチューデントラボ所長兼担任 黒津高教授(再任) ◆教務部長補佐 川村清志教授(新任) ◆学生部長補佐 酒井誠教授(新任)

【解任】(9月30日付) ◆有賀幸則 教務部長補佐(退職)(9月30日付)

◆張替勇助氏(超高压放電研究センター)荒井美千代事務職員(教務部入試室)

◆大木幹雄助教(情報工学科)出張先(米国)6/17/6/19/目的「日韓IT人材交流プロジェクトに係る韓国大学との打ち合わせ」協本隆之講師(超高压放電研究センター)出張先(ドイツ)6/24/7/2/目的「ISO17025認定取得のための校正試験立会」

◆横谷真一郎助教(機械工学科)出張先(スペイン)7/5/7/13/目的「先端材料製法の国際会議に出席と招待講演」

◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆ICALT 2003の論文発表 ◆鈴木康之助教(共通系)出張先(モンゴル)7/21/8/6/目的「モンゴル国DARHADYN HOTGOLS環境調査」

◆辻村泰寛助教(情報工学科)出張先(米国)7/27/8/1/目的「The 7th World Multiconference on Systemics Cybernetics and Informations (SCI2003)」の座長及び発表 ◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆山田秀美講師(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆松田洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

編集後記

台風や大地震といった自然災害が多い9月でしたが、季節はめっきり秋らしくなり、大学は10月から秋学期へ突入です。秋季の入学式も学部、大学院、留学生別科合同で挙行されました。学生がキャンパスに戻り、長かったような短かったような夏休みを話題に盛り上がることでしよう。平日頃、時間とケンカするように生活している私でも、友との再会に興奮したこの時期のことは懐かしく思い出します。私見ですが、3歳までの幼児期とともに、大学生活の4年間は後の人生を決定付ける何かがある様な気がしてなりません。様々な出会いについて、そして自分にとって「価値ある人生」とはどういうことかを考えてみてください。秋学期の節目ということもあり、感想を書いてみました。また半年、体を大切に勉学に励んでそれぞれの目的・目標をクリアしてください。

▼ホームカミングデーの第4回目が開催されます。同窓生の皆様のご来学を心よりお待ちしております。(F)



STUDENT FACE 03

この夏、酒田市国体記念体育館で第57回全日本学生体操競技選手権大会(インカレ)が行われ、本学からは機械工学科1年の加藤義隆君が出場した。

「個人の部」に出場した彼は、初の大舞台というプレッシャーからか、思うような演技が出来なかったと振り返る。

彼が父親に勧められて体操を始めたのは幼稚園の時。小学校の時に、3年間ほど休んだが、中学校入学と同時に再開し、現在に至っている。

体操の魅力について聞いてみると、面白い、とにかく体操自体好き。特に難

度の高い技が出来たときの満足感はたまらない。早く大会で試してみたいなという。難度とは、技の難しさを表す言葉。昔、体操競技の実況中継でアナウンサーが

サーの造語で、日本でしか通用しないらしい。全日本インカレは、床・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒の6種目の合計点(1種目10点、60点満点)で競われる。

普段の練習時間は3時間。休みは週に1日しかない。3時間半の練習といつても、その前の準備に1時間、怪我をしないためにも

大きな支えになったと彼は語る。普段はやさしく見守ってくれていることが多いが、技から技への移行や着地時など、要所要所での的確な指示をしてくれたことが、彼を全日本インカレに導いた。

男子体操競技界の平均身長が165センチという中、159センチという小柄な彼ではあるが、その小さな体から繰り出されるダイナミックな演技は、見ている私たちを魅了する。

体操競技を通じて得た友達を大事にしたいと彼は話す。毎日のつらい練習を共に乗り越え、掲げる目標も同じ。彼はそんな仲間とチーム(団体戦)として全日本インカレに出場したい、と来年の抱負を語ってくれた。

彼はまだ、この春入学したばかりの1年生。さらなる飛躍を期待したい。(慎)

学友会館でコンサート開催

生涯学習センターの主催で、9月6日(土)15時より、本学学友会館で国民歌劇団「華組」による童謡コンサートが開催された。当日は、懐かしい名曲の数々に和やかな時が流れた。また、10月31日(金)18時から、NHK交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏のコンサートも開かれ、好評であった。

シスター工学科鈴木清研究員、白石工業高校出身、平成14年3月に本学博士後期課程修了。が、「脆性材料への圧子押込みにおける亀裂の発生と制御に関する研究」で、低粒加工学会より奨励賞を受賞した。同研究はガラス表面を傷つけずにガラスを真直ぐに切断する新しい加工法で、既に同氏の勤務先であるベルデック社で実用化に至っている。

システム工学科鈴木清研究員、白石工業高校出身、平成14年3月に本学博士後期課程修了。が、「脆性材料への圧子押込みにおける亀裂の発生と制御に関する研究」で、低粒加工学会より奨励賞を受賞した。同研究はガラス表面を傷つけずにガラスを真直ぐに切断する新しい加工法で、既に同氏の勤務先であるベルデック社で実用化に至っている。

【配置換え】(10月1日付) ◆青柳稔実験講師(電気実験研究センター)電気電子工学科に異動 ◆京野晴郎図書課事務課員に異動 ◆図書課事務課員に異動 ◆武井孝経図書課事務課員に異動 ◆川島信也図書課員に異動 ◆総務部総務課国際交流係に異動 ◆関谷真一総務課員に異動 ◆教務部教務課に異動 ◆村上寛知図書課事務課員に異動 ◆財務部経理課に異動 ◆杉本賢二図書課事務課員に異動 ◆教務部入試室に異動

【任用】(10月1日付) ◆共通系主任 寺尾裕教授(再任) ◆電気電子工学科主任 石田之助教授(再任) ◆建築学系主任 波多野純教授(再任) ◆機械工学専攻幹事 横谷真一郎教授(再任) ◆システム工学科専攻幹事 渡部修一教授(再任) ◆留学生別科主任 山岸高教授(再任) ◆スチューデントラボ所長兼担任 黒津高教授(再任) ◆教務部長補佐 川村清志教授(新任) ◆学生部長補佐 酒井誠教授(新任)

【解任】(9月30日付) ◆有賀幸則 教務部長補佐(退職)(9月30日付)

◆張替勇助氏(超高压放電研究センター)荒井美千代事務職員(教務部入試室)

◆大木幹雄助教(情報工学科)出張先(米国)6/17/6/19/目的「日韓IT人材交流プロジェクトに係る韓国大学との打ち合わせ」協本隆之講師(超高压放電研究センター)出張先(ドイツ)6/24/7/2/目的「ISO17025認定取得のための校正試験立会」

◆横谷真一郎助教(機械工学科)出張先(スペイン)7/5/7/13/目的「先端材料製法の国際会議に出席と招待講演」

◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆ICALT 2003の論文発表 ◆鈴木康之助教(共通系)出張先(モンゴル)7/21/8/6/目的「モンゴル国DARHADYN HOTGOLS環境調査」

◆辻村泰寛助教(情報工学科)出張先(米国)7/27/8/1/目的「The 7th World Multiconference on Systemics Cybernetics and Informations (SCI2003)」の座長及び発表 ◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆山田秀美講師(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆松田洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。

この夏、酒田市国体記念体育館で第57回全日本学生体操競技選手権大会(インカレ)が行われ、本学からは機械工学科1年の加藤義隆君が出場した。

「個人の部」に出場した彼は、初の大舞台というプレッシャーからか、思うような演技が出来なかったと振り返る。

彼が父親に勧められて体操を始めたのは幼稚園の時。小学校の時に、3年間ほど休んだが、中学校入学と同時に再開し、現在に至っている。

体操の魅力について聞いてみると、面白い、とにかく体操自体好き。特に難



彼はその中でも、あん馬を得意としている。あん馬は、主に振動技(前後の交差)と旋回(両足旋回と開脚旋回)で構成されている。過ぎてしまう。今回の大会出場は、顧問の小林先生のアドバイスが

彼はその中でも、あん馬を得意としている。あん馬は、主に振動技(前後の交差)と旋回(両足旋回と開脚旋回)で構成されている。過ぎてしまう。今回の大会出場は、顧問の小林先生のアドバイスが

彼はその中でも、あん馬を得意としている。あん馬は、主に振動技(前後の交差)と旋回(両足旋回と開脚旋回)で構成されている。過ぎてしまう。今回の大会出場は、顧問の小林先生のアドバイスが

彼はその中でも、あん馬を得意としている。あん馬は、主に振動技(前後の交差)と旋回(両足旋回と開脚旋回)で構成されている。過ぎてしまう。今回の大会出場は、顧問の小林先生のアドバイスが

演習室コンピュータシステムリニューアル

2ヶ所の演習室用コンピュータシステムの入替えが済み稼動状態に入った。4号館情報技術演習室1にはエプソンのType-MA 126台を中核とした「マルチプラットフォーム情報教育システム」が、また、情報工学科棟1階情報処理演習室Ⅲには102台のDELLのPrecision450を中核とする「マルチメディア対応情報技術教育システム」が導入された。いずれも大幅に性能アップしているが、特に4号館の「情報教育システム」はディスプレイが机に内蔵され(写真)、斬新なイメージ。これらのシステムは、私立大学教育研究高度化推進特別補助(情報通信設備借入)に申請中。(用度・管財課 鈴木)

演習室コンピュータシステムリニューアル

2ヶ所の演習室用コンピュータシステムの入替えが済み稼動状態に入った。4号館情報技術演習室1にはエプソンのType-MA 126台を中核とした「マルチプラットフォーム情報教育システム」が、また、情報工学科棟1階情報処理演習室Ⅲには102台のDELLのPrecision450を中核とする「マルチメディア対応情報技術教育システム」が導入された。いずれも大幅に性能アップしているが、特に4号館の「情報教育システム」はディスプレイが机に内蔵され(写真)、斬新なイメージ。これらのシステムは、私立大学教育研究高度化推進特別補助(情報通信設備借入)に申請中。(用度・管財課 鈴木)

システム工学科鈴木清研究員、白石工業高校出身、平成14年3月に本学博士後期課程修了。が、「脆性材料への圧子押込みにおける亀裂の発生と制御に関する研究」で、低粒加工学会より奨励賞を受賞した。同研究はガラス表面を傷つけずにガラスを真直ぐに切断する新しい加工法で、既に同氏の勤務先であるベルデック社で実用化に至っている。

【配置換え】(10月1日付) ◆青柳稔実験講師(電気実験研究センター)電気電子工学科に異動 ◆京野晴郎図書課事務課員に異動 ◆図書課事務課員に異動 ◆武井孝経図書課事務課員に異動 ◆川島信也図書課員に異動 ◆総務部総務課国際交流係に異動 ◆関谷真一総務課員に異動 ◆教務部教務課に異動 ◆村上寛知図書課事務課員に異動 ◆財務部経理課に異動 ◆杉本賢二図書課事務課員に異動 ◆教務部入試室に異動

【任用】(10月1日付) ◆共通系主任 寺尾裕教授(再任) ◆電気電子工学科主任 石田之助教授(再任) ◆建築学系主任 波多野純教授(再任) ◆機械工学専攻幹事 横谷真一郎教授(再任) ◆システム工学科専攻幹事 渡部修一教授(再任) ◆留学生別科主任 山岸高教授(再任) ◆スチューデントラボ所長兼担任 黒津高教授(再任) ◆教務部長補佐 川村清志教授(新任) ◆学生部長補佐 酒井誠教授(新任)

【解任】(9月30日付) ◆有賀幸則 教務部長補佐(退職)(9月30日付)

◆張替勇助氏(超高压放電研究センター)荒井美千代事務職員(教務部入試室)

◆大木幹雄助教(情報工学科)出張先(米国)6/17/6/19/目的「日韓IT人材交流プロジェクトに係る韓国大学との打ち合わせ」協本隆之講師(超高压放電研究センター)出張先(ドイツ)6/24/7/2/目的「ISO17025認定取得のための校正試験立会」

◆横谷真一郎助教(機械工学科)出張先(スペイン)7/5/7/13/目的「先端材料製法の国際会議に出席と招待講演」

◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(ギリシャ)7/6/7/13/目的「国際会議」

◆ICALT 2003の論文発表 ◆鈴木康之助教(共通系)出張先(モンゴル)7/21/8/6/目的「モンゴル国DARHADYN HOTGOLS環境調査」

◆辻村泰寛助教(情報工学科)出張先(米国)7/27/8/1/目的「The 7th World Multiconference on Systemics Cybernetics and Informations (SCI2003)」の座長及び発表 ◆新藤義昭助教(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆山田秀美講師(情報工学科)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆松田洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

◆論文発表 ◆田中洋助教(情報技術センター)出張先(米国)7/29/8/6/目的「国際会議」

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。